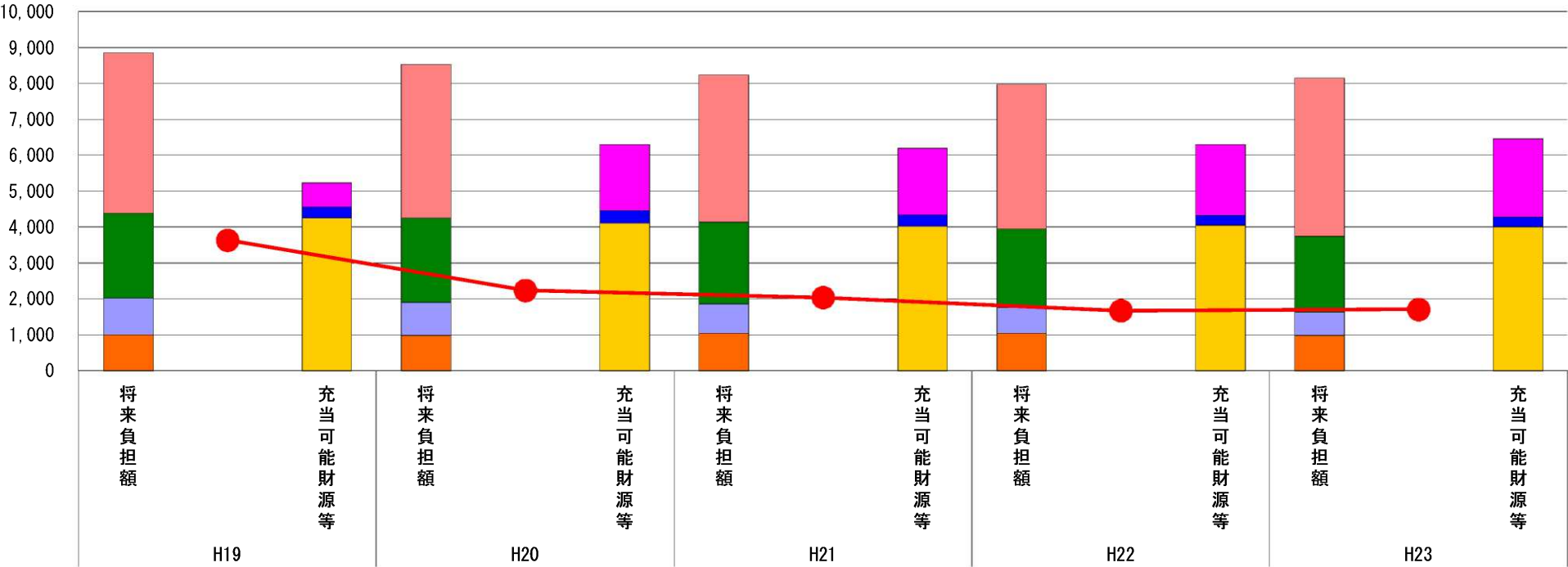


(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

宮城県大郷町

(百万円)



分子の構造		年度				
		H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	4,468	4,283	4,101	4,022	4,416
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額	2,366	2,348	2,272	2,194	2,114
	組合等負担等見込額	1,023	920	819	718	643
	退職手当負担見込額	1,007	985	1,045	1,047	990
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-	-
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	662	1,844	1,851	1,980	2,176
	充当可能特定歳入	307	347	321	276	277
	基準財政需要額算入見込額	4,265	4,112	4,027	4,052	4,007
(A) - (B)		3,631	2,234	2,037	1,671	1,703

分析欄

将来負担比率については、平成19年度と23年度の比較で91.9ポイントの減と大幅に減少してきている。

この結果は、これまでの義務的経費の削減等を含む行財政改革の成果であり、公営企業債等繰入見込額や組合等負担等見込額の着実な減少、財政調整基金や減債基金の積立てによる充当可能基金の残高増等による将来負担額の減少が主な要因である。

しかしながら、一般会計に係る地方債の現在高で分かるように、統合小学校建設や災害復旧に係る公債費の増等を要因とする比率の上昇が考えられることから、より一層の財政健全化に努める必要がある。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。